

もものくいんぼう すけっちびより

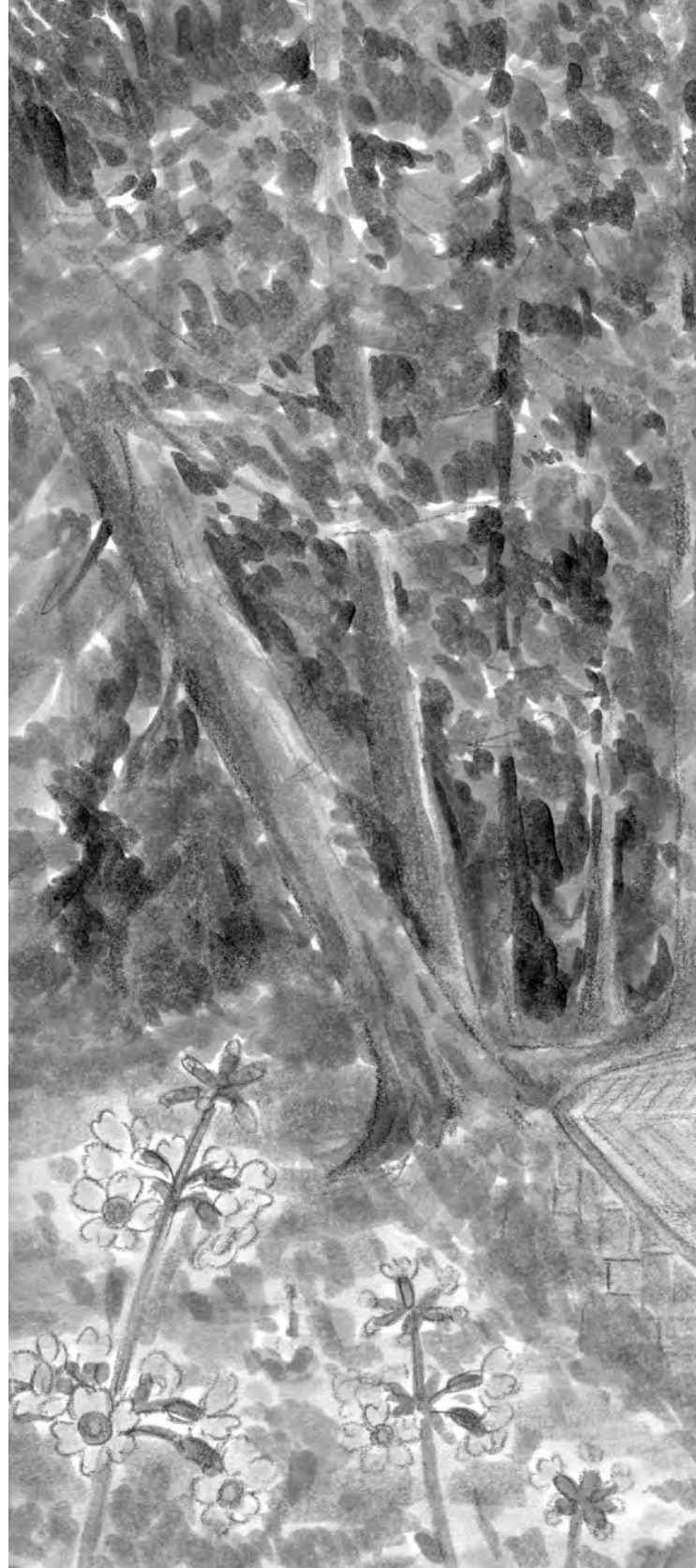
第44回

大宝物があちこちに 見つかる 輝き始めた町

先日、仕事で津別町に行った。津別に来るのは2度目だけど町というよりピンポイントで取材先に伺っただけのたぶん16年ぶりだ。そしてその間に、私の中では津別町はちょっとした憧れの街になっていった。チミケップ湖や奥屈斜路湖温泉にはそれぞれに素敵な宿もあり、シゲチャンランド、クリンソウの咲くノンノの森、展望台からの雲海の眺め、など、行きたいところがたくさんある町になっていた。特にノンノの森のクリンソウは初めて知った植物。野草好きなのでいつか咲いている時期に行きたい。そういえばノンノはアイヌ語で確か花の意味と記憶している。

今回仕事先のご厚意でシゲチャンランドに行く機会をいただいた。閉園1時間前に滑り込み、広い施設に点在するさまざまな展示会場を急足で拝見した。なんと、シゲチャンランドの^{おおにしげなり}大西重成氏にもお会いできて、何か不思議な感じがした。東京で全国的な仕事をしてきたアーティストに津別で会えるのだからとても驚きだった。なぜ津別を選び、私設美術館を作ったのかはシゲチャンランドのHPで読んでいただければと思う。作品は死んだ動物の骨や流木、使い捨てられたものたちに新たな生命を吹き込み、いらぬものなんて何もないというかのように展示されている。見ているとその作品たちのエネルギーに圧倒される。

そんなシゲチャンランドをはじめ、津別の魅力的な場所のことを考えてみた。ずっと前から人知れず町にあった宝物が発掘され、磨かれ輝き始めているのではないかと。それは人と自然の間の緩やかな光景であり、北海道内外の人を惹きつけている理由なのかもしれない。



※絵はノンノの森の風景



すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろ事務局長

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ?」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ?くだもの」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: さざやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。